

AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会 / (公財)日本自然保護協会 / 赤谷森林ふれあい推進センター

赤谷の森だより

2014.08.01

vol. 26

トピックス

- 地域と繋がる赤谷プロジェクト 泊まれる学校さる小校長 飯島健治
- 赤谷プロジェクト活動報告会 基調講演 東京大学准教授 蔵治光一郎



色彩の饗宴!

ノアザミとヒメシジミ

赤谷の森三二写真館!

今回のテーマ 「赤谷の森の彩(いろどり)」



ニッコウキスゲは、花が黄色で葉がカササゲに似ているため、地名を付けてニッコウキスゲと呼ばれるようになり、全国に広まったそうです。正式には、センテイカ(禅庭花)



チシオシモツケ(血潮下野)とは、シモツケソウ(バラ科)のうちで、葉脈が血潮のように赤くなるものです。群馬県三国土地の植物について奥山春季氏が、名付けたものです。



ミヤマクワガタ、アオカナブン、コムラサキ(いきもの村周辺)

「利根川最上流部、赤谷エリアの溪流環境」

溪流環境ワーキンググループ座長・NACS-J 参与・国士舘大学

中井達郎

赤谷の森でわかったこと

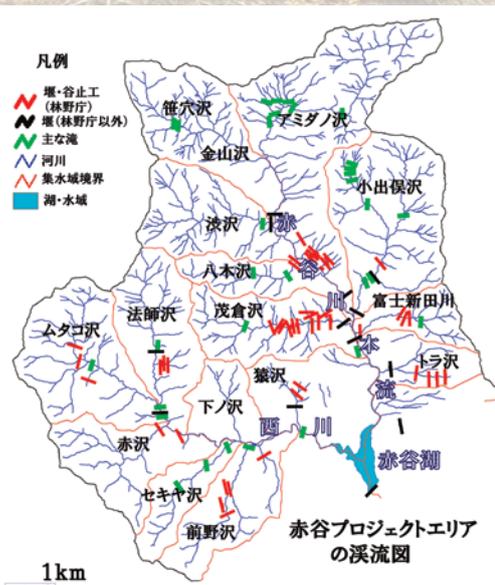
利根川最上流部 赤谷エリアの溪流環境

赤谷プロジェクトエリアは利根川支流、赤谷川の最上流に位置します。この集水域は地域内には、本流である赤谷川、赤谷湖で合流する西川、それらに合流する中小の溪流から成っています。図1にその水系を示しました。

地点で、流れの特徴（瀬や淵などの地形や堆積物、流路の形、周辺植生、ダムなどの人工物の有無など）についての溪流環境調査をしました（写1）。

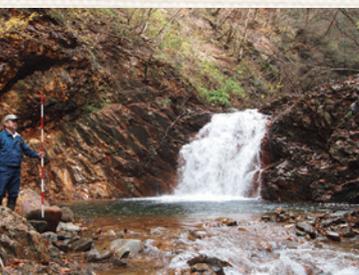
図1をみると、溪流によって違いがあるように思いませんか？ 治山ダム（堰）が集中している溪流や滝が多い溪流など、それぞれの特徴がありそうです。溪流環境WGでは、このエリア内の117

溪流では大雨の時に、大きな石が運ばれたり、岩盤が削られたりといったダイナミックな変化がみられます。そのようなときに、生物の生息、生育にとって大切な多様な場所（環境）が作られるのです。深い淵と流れの速い瀬、大きな石がゴロゴロする川底、石と石の間のすき間、巨石や流木の陰などなど。溪流環境調査の結果、赤谷エリアの溪流には多様な環境があることがわかってきました。「広い河原、瀬のみのタイプ」「露岩が多い淵のみのタイプ」など6つのタイプがみられました。支流によってもその特徴が



(図-1) 赤谷プロジェクトエリアの溪流図

異なるようです。近々溪流環境マップにまとめていく予定です。さて、上記の「広い河原、瀬のみのタイプ」の溪流は、治山ダムの直上で多くみられました。河川・溪流の大切な働きとして、森・山と海をつなぐ連続性があります。このタイプの溪流がダムの直上にあるということは、ダムが下流に下っていく土砂をとどめてしまっていることを示しています。それは、魚など川を行き来する生物の行動も阻害していることも意味しています。一方で河川・溪流のダイナミックな変化は近隣の住民の方々に甚大な被害をもたらす



(写-1) 溪流環境調査の様子



(写-2) 中央部を撤去した茂倉沢2号ダム



(写-3) 緩い斜路を設けた茂倉沢5-1号ダム

可能性もあります。治山ダムなどはその被害を軽減するための施設です。治山と溪流の生物多様性保全の両立が図れないか。このエリアで最も治山ダムが集中する茂倉沢で、治山ダムの中央部の撤去や連続性を確保した治山施設の考案・設置などが試みられてきました（写1・2・3）。同時に行われてきた水生昆虫やカワネズミなどの生物調査からは、連続性を確保した治山施設の試みの効果が現れ始めているような結果が得られています。今後、溪流環境WGを中心に効果を確かめるためのモニタリングを続けていく予定です。



溪流環境ワーキンググループ座長
NACS-J 参与、国士舘大学
中井 達郎

トピックス

地域と繋がる赤谷プロジェクト



一般社団法人 猿ヶ京小学校スポーツアカデミー 校長 飯島 健治 (いじま けんじ)



様々な研修施設として利用

自己紹介と普段取組んでいること(仕事含む)を教えてください。

はじめまして、泊まれる学校さる小 校長の飯島と申します。2008年に廃校となった猿ヶ京小学校ですが、みなかみ町はじめ、多くの方々のご協力のもと2012年4月から「泊まれる学校 さる小」として運営をスタートさせました。多くの方々に利用されることが本来の目的だと思っておりますので、宿泊にお越しいただいた方々、地域の方々、各世代の交流をはじめ「泊まれる・遊べる・学べる」をコンセプトに地域の活性化を目的とした施設として積極的な活用しております。

赤谷プロジェクト関係者とお知り合いになった経緯をお知らせください。

群馬県主催イベントの会場候補にあげていただいた際にお付き合いがスタートしました。なかでもロケットリーフを共同開発し、普及にもご協力いただくという深い絆で繋がっていると勝手に思っております。ロケットリーフと

は間伐材を利用した空飛ぶタネの模型です。輪ゴム1本の動力で信じられないほど高く舞い上がり、ゆっくりと回転しながら落ちてくるという老若男女誰でも楽しめるスギやヒノキの間伐材で作るおもちゃです。また、オンパクでも共同でイベントを開催するなど今後とも楽しい取り組みを発信できればと思っております。

今後、赤谷プロジェクト関係者で行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

今後は、さる小に宿泊したお客さんや地元の子もたちが参加できるイベントを多く行っていければと思います。荒れた山に入り間伐を行い、その間伐材でベンチやテーブルを作り、そこでお菓子など食べて、ロケットリーフで遊ぶ! 間伐ツアー等! 私自身が参加したいなど...

赤谷プロジェクトへ一言!お願いします。(何でもOK!)

さる小へ来るたびに面白い遊びやアイデアをいただきありがとうございます! 今後も多くの方が参加できるイベントを楽しみにしています!

赤谷プロジェクト活動報告会

平成26年5月11日(日) みなかみ町新治農村環境改善センターにて、赤谷プロジェクト活動報告会～森の恵みと地域づくり～をテーマに開催しました。

「水と森と人の最新科学」～水と森の防人として～と題した基調講演では、蔵治光一郎先生(東京大学大学院農学生命科学研究科准教授)より、森に降った雨はその後どうなるのか? 温泉と森との関係、森の健康診断の方法など、今後の水源の森の管理や下流域との交流に役立てられる内容として、最新の知見を紹介していただきました。

また、赤谷プロジェクトの活動報告や「森の恵みと地域づくり」をテーマに意見交換を行いました。



赤谷プロジェクトに関するイベント予定

イベント名	実施日	備考
赤谷の日 (いきもの村外)	毎月第1土曜日	参加者募集しています!
みなかみオンパク	9/26~10/26	センカメ仙人、マツのコーデラックスほか提供予定!
自然林復元100年モニタリング調査会	10/12(日)~13(月)	募集開始: 8月下旬
赤谷の森自然散策	10/25(土)	募集開始: 9月下旬予定 (20名)

※イベントの詳細等は、準備ができれば赤谷森林ふれあい推進センターHPに掲載致します。

お知らせ

- 関東森林管理局 人事異動 (H26.4.1)
- 計画課長 斎藤 哲→島内厚実
- 赤谷森林ふれあい推進センター 自然再生指導官 石坂 忠 (退職H26.3.31) →藤木久司



色々な活動をしているよ!

赤谷プロジェクトの活動

トピックス



H26.4.12

第3回あかぎ南ろく桜フェスタ2014 国立赤城青少年交流の家において開催された、赤谷プロジェクトブースでは、ネイチャークラフトとロケットリーフ作りの体験を行いました。



H26.4.29

2014敷島公園祭り 関東森林管理局ブースの隣に赤谷プロジェクトPRブースを設置し、空飛ぶタネの模型ロケットリーフ作り体験を行いました。



H26.5.1

上毛高原駅赤谷プロジェクトPRブースオープン! 展示期間は一ヶ月間。今回は、森の贈り物をテーマに来場者参加型の特設コーナーを設置しました。



H26.5.24

赤谷の森自然散策(第1回) みなかみ町観光課の共催で、「赤谷の森自然散策～春の息吹と紙芝居～」を開催しました。ニリンソウの群落は、とても綺麗でした。



H26.5.25

赤谷湖Eポート大会2014 みなかみ町の赤谷湖で開催された、10人乗りの手こぎボートレースに参加しました。(写真提供:松田大介)



H26.6.22

新潟大学赤谷プロジェクト見学「持続可能な森林経営演習」森林木材関連事業者と関連施設の見学として、赤谷プロジェクトの取組を見学に来て頂きました。



H26.7.13

三国山・お花畑ハイキング みなかみ町、赤谷プロジェクト地域協議会共催で、ニッコウキスゲを見に行こう!の観覧会が開催されました。



H26.7.21

デサントキッズスポーツ教室2014 高原千葉村において、無線機や双眼鏡等を使用しながら課題をクリアする「森の探検ウォークラリー」を行いました。



H26.7.23

新治小学校サマースクール 赤谷ノートやフィールドスコープ等を使用しながら、アリゾゴクのお話なども聞いて森の生き物等について学びました。

赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取り組みです。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha (10km四方) の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受け入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

※トピックスの詳細は

赤谷森林ふれあい推進センター

検索



赤谷プロジェクトサポーター募集!

(たくさん笑顔がまっます(^^)/)



赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先

日本自然保護協会：出島・藤田

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-66-0888

代表幹事 林 泉

メールアドレス kawafuru0888@gmail.com

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4107

プロジェクト担当 出島 誠一

http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html
メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 藤澤 将志

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto_akaya_fc/index.html
メールアドレス akaya_postmaster@rinya.maff.go.jp